

大学院生に望む 2019

学 長 小 原 芳 明

今日から大学院での教育研究活動が始まります。

高学歴化した社会で活動していくには膨大な量だけではなくより高度な諜報 (Intelligence) が必要です。それは諜報を生産する量と速度が速くなってきているだけではなく、それが世界へと通信される速度が速まってきます。そうして次の諜報生産と伝播へと繋がっていくのが社会高度情報化社会の特徴と言われています。

例えば、19世紀まで人類が保持する知識が倍増するのに100年かかったそうですが、時代と共に蓄積された知識と技術は地域覇権を拡大する手段として駆使されてきました。さらに皮肉なことに戦争が科学技術を更新させることにもなってきました。もちろん戦争だけが知識生産を促進してきたわけではありません。知識と技術を向上させてきた背景にあるのは人間の何か新しいことを知りたいという知的好奇心です。

教育は「温故知新」とあるように、過去から蓄積された知識を基にして新しい知識を産み出すことです。そうして生産された知識が新しい知識へと繋がり、そしてその応用で生まれた科学技術はさらなる「次世代」の知識を求めてきたのです。そうした活動は時代が進むにつれて加速されてきたのです。

20世紀終わりに起きたコンピューターとインターネットの大衆化という情報伝達技術の発展は、新たに生産される知識の速さとの量を幾何学的に伸ばしました。それ故に知識が増える様を日進月歩ではなく「秒進分歩」と言われているほどです。

朝令暮改とは拙速な意思決定を下すことへの警告ですが、今の時代、こと最新の諜報、知識そして情報を駆使して決定を下さなければならない場合こそ朝令暮改型が推奨されているほどです。分野によっては朝令暮改どころか「朝令朝改」でなければ他者（社）に取り残されてしまうほどです。今、先端の知識であっても来年には「並み」の知識となります。それが高度情報社会の現実です。

この時代、多くの社会はSTEAM (Sciences, Technologies, Engineering, Arts, Mathematics) 教育に力を入れて世界をリードしようとしています。そうした活動の基礎を担っているのが大学院での研究です。

今ある知識をより深く理解した上に、新しい知識と技術が生産されるのを観るのは楽しみでもあります。温故知新とあるように基礎となる知識を土台にして新たな知識を産み出す機会が大学院です。大学院の活動は、師弟同行であり双方向の知的活動への積極的参加型です。それには知識を得るために自ら行動し、未知の領域に「一步前へ踏み込む」Proactiveな心構えが必要です。本学が掲げている「第二里行者」の精神とは、まさしくその心構えです。

どの社会も、より良い明日を目指し、社会へ貢献できる人を必要としています。そして、いつの時代でも、社会はより良い社会を創り出せる人的資本の構築を求めているのです。日本は輸出できるほどの地下資源に恵まれていません。わが国にとってSTEAM分野の人的資源がいかに重要であるのかを認識し、社会に貢献できる人間となることを大学院での学修目的としてください。